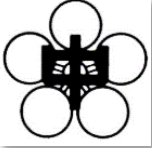


<校訓>白梅の においゆたかに 明るく強く 毎日必ず 一歩前進



輝く未来へ

教育目標「自ら学び 創造する生徒」「豊かな心で 思いやりのある生徒」「ねばり強く 健康な生徒」

板橋区立加賀中学校
学校だより
平成 30 年度 第 23 号
平成 31 年 3 月 25 日
校長 水谷 智子

記念の年を終え、明日へ

今年度は、新学習指導要領移行期間の一年目、本校 60 周年記念の年であり、コミュニティ・スクール導入推進校、オリパラ教育重点校として取り組んだ年でもありました。猛暑の夏には熱中症対策に気を遣い、9月からは区の部活動指針を受けて、部活動方針の一部変更もありました。また、小中一貫教育の推進や教員の働き方改革など、様々な変革の時期でもありました。これまで以上に、地域の公立学校であることを意識しながら、「白梅学びのエリア」の子供たちを小中 9 年間でどう育てていくのか、また、学校の役割や地域との連携のあり方などについても考える一年になりました。

このような変革期においても、生徒たちは、「文武両道の加賀中生」としての自覚を持ってたくましく成長しました。先日の卒業式では、132 名の卒業生が仲間たちとの別れを惜しみながら、笑顔で巣立っていきました。

今年度、周年行事を初め、様々な場面において、保護者や地域の皆様には大変お世話になりました。この節目の年を皆様と共に過ごすことができましたこと、そして、加賀中学校の歴史に新たな 1 ページを加えることができましたことに、大きな喜びを感じています。皆様からいただきました本校の教育活動へのご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

来年度、加賀中学校はさらなる変革の時を迎えます。一層のご支援をよろしくお願いいたします。

○修了式式辞より

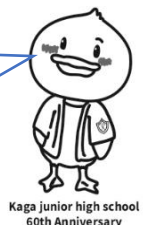
(前略) 明日から春休みが始まります。春休みは 4 月からの新しい学年への準備をする期間です。4 月から学年が上がり、また新しい生活が始まり、たくさんのことを吸収していかなければなりません。そのために必要なこと。それは「空いたスペースを作っておく」ということです。

たくさん息を吸うためにはどうしたらいいでしょう？ 意識してしっかりと息を吐ききることです。「吸おう」と思わなくても、しっかり息を吐ききれば、自然とたくさん空気が入ってきます。何かを入れるためには、入る隙間を作る、つまり何かを捨てることが大事です。

皆さんは、日々たくさんの情報に接しています。学習や友達との関わりから得る情報も多いですが、スマホや携帯などの情報通信機器から得られる情報が、今、とても多くなっています。先日ある TV 番組の中で、「現代の人たちの頭の中には、情報がゴミ屋敷のように溜まっている」というショッキングな話がありました。自分の頭の中をちょっと想像してみてください。

春休みの間、今年度使い終わった教材などを整理することもあるでしょう。もう使わないものを処分して空きスペースを作ること、そして、スマホや携帯の電源を切って自然の中で身体を動かし、いらぬ情報を頭の中から追い出すこと、そうして、頭も心も身体もリフレッシュして、新しい気持ちで次の学年を迎えてほしいと思います(後略)

60周年記念オリジナルキャラクターのかがもんです。60周年記念のレガシーとして、今後も加賀中を応援していきます。これからも、よろしくおねがいします。



Kaga junior high school
60th Anniversary



◎卒業式式辞より

(前略) さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ただいま、一人ひとりに卒業証書をお渡ししました。卒業証書を受け取る皆さんの姿には、中学校三年間、義務教育九年間の学びを得て立派に成長した自信と誇りが感じられました。皆さんは本校第60期の卒業生として、記念の年に巣立っていきます。皆さんが加賀中学校の歴史に確かな足跡を残してくれたことに感謝しています。

加賀中生のあるべき姿、それは、自ら考え行動する自主自律、自主創造の有り様です。日々の学校生活や学校行事への取り組みにおいて、自分で考える、仲間に呼びかける、仲間の呼びかけに応える、そうして集団生活を律し、互いを思いやりながら、より良いものを創り出すという加賀中学校の伝統が築かれてきました。その先頭にたち、下級生に「加賀中生のあるべき姿」を示し続けてくれたのが皆さんだったと思います。特に体育祭や白梅祭においては、一人ひとりが熱い思いを持って仲間と協力して本気で取り組む姿が、皆に大きな感動を与えてくれました。また、部活動や委員会活動においては、「限界まで挑戦し、粘り強く努力することこそが、何ものにも代えがたい」ということを、身をもって下級生たちに示してくれました。「先輩を超えたい」という思いを後輩たちに抱かせることができたこと、それは、伝統を築き継承していくという努めをしっかりと果たしたことの証です。

修学旅行三日目。京都は豪雨に見舞われ、予定のタクシー行動も変更を余儀なくされました。帰りの新幹線の出発は遅れ、二時間あまりもコンコースで待たされる事態になりました。そんな状況においても、皆さんは落ち着いて友達と談笑しながら、臨機応変に行動していました。また、ある日の教室には、「ここは受験生の教室です」という張り紙がありました。TPOを考え、どういう行動が今求められているのか、その場その場において「あるべき姿」を考えて行動する、そうした経験は、今後社会の中で生きていく皆さんの大きな力になることでしょう。

さて、皆さんが社会に出て活躍する10年後、20年後、社会は大きく変わっています。今の常識は、未来の社会の常識ではなくなっているかもしれません。

昨年12月に、本庶佑さんが日本人として27人目のノーベル賞、ノーベル医学生理学賞を受賞しました。本庶さんは「免疫に関わるタンパク質を発見し、がん免疫療法の発展に貢献した」としてノーベル賞を受賞しましたが、彼は受賞後のインタビューでこのように話しています。「教科書がすべて正しかったら科学の進歩はないわけで、教科書に書いてあることが間違っていることはたくさんある。人が言っていることや教科書に書いてあることをすべて信じてはいけません。「なぜか」と疑っていくことが大事だと思っている」

科学技術の発展は日進月歩です。新しい技術や新しい発見により、今まで常識とされていたことや歴史的事実と考えられていた定説が覆されることもたくさんあるでしょう。そんな時は、これまでの慣習にとらわれず、改めて自分の頭で冷静に考え、柔軟な発想で、新しい状況にふさわしい行動を取れるようにしてはなりません。変えるべきは変え、変わるべきは変わり、時代の流れの中で「あるべき姿」を追求していかなければなりません。

しかし、変えてはならないものもあります。それは、人とのつながりを大切にすることです。人は人とのつながりにおいて人になります。どうか、感謝の気持ちを忘れず、人の痛みを感じ取る「豊かな感性」と、冷静に考えて行動できる「本物の知性」を持ち続けてください。それが、皆さんの輝く未来へのサポートとなることでしょう。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。中学校での三年間は、悩みも多く多感な時期で、心配の種は尽きなかったことと思います。けれども、子供たちは様々な困難を乗り越え、たくましく成長しました。これまでの三年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに心より深く感謝申し上げます。保護者・地域の皆様、今後は、子供たちが自らの力で進路を切り拓き、地域や社会の中で、自立・貢献・共生できるよう、家庭や地域の中で子供たちを見守り支えてくださいよう、お願い申し上げます。

卒業生の皆さん、板橋は皆さんの「ふるさと」です。加賀中学校は皆さんの母校です。輝く未来に向けて、この加賀中学校で過ごした日々を心の糧にして、力強く、誇り高く、羽ばたいてください。

「白梅の におい豊かに 明るく強く 毎日必ず 一歩前進」 皆さんの前途に幸多かれとお祈りし、式辞といたします。